

英語カリキュラム方針

●アカデミアクラス英語の主題を定める上での前提

アカデミアクラスにおける外国語学習の意義

- 日本語と外国語を相対的に捉えることによって、その構造や語彙などの仕組み、それらが統合されて働くシステム、その背景となる文化など、日本語と外国語の違いに気付き、それぞれの理解を深めることができる。
- 日本語と外国語では、表現の仕方の種類が異なるため、両言語を学習することで、表現の仕方の種類を広げることができる。例えば日本語には、頭括型や尾括型、双括型があるが、尾括型で書いたものが多い。一方、英語の場合には「トピックセンテンス」を最初に表現することが多い。その違いを意識すると、どのような場合にどの構成を選ぶかに関して、生徒の選択肢が増える。
- 言語を学ぶことは、その言語を創造し継承してきた文化や、その言語を母語とする人々のものの見方・考え方を学ぶことでもある。言語で書かれる内容や話される内容には、文化やものの見方・考え方が反映されているため、日本語の題材と外国語の題材で共通点と相違点がある。共通点・相違点を学習することで、相互理解のための準備を整えることができる。例えば、同じ“I”でも、「わたし」「わたしたち」「ぼく」「おれ」など様々な表現がある日本語を運用する私たちの“I”に対する捉え方を学ぶことができる。

●アカデミアクラス英語の主題

- 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析し、さまざまな見方とそこに含まれる意味を特定しつつ、情報を英語で的確に収集し論理的に思考する。自らの意見を正当化するために英語を活用し、それを客観的に内省する（批判的思考力）
- 幅広い情報源やデータにおけるさまざまな見方とそこに含まれる意味を特定しつつ、自分とは異なる基準によるものの見方・考え方への理解をもとに、自らの主張を創り上げていく（創造的思考力）
- 思考、振り返り、自己表現、および他の教科の学習のための原動力として言語を認識、活用し、読み書きの能力を向上させるためのツールとしても活用できるようになる（実践・実行力）

●カリキュラム方針

a. 批判的思考力

1. 情報を的確に理解する能力の育成として、英語の言語構造の理解（文法・単語など）を徹底する
2. 日本語での情報と英語での情報（ニュースなど）を比較し、異なる文化や社会における多様な視点を学ぶ
3. 発信する内容や手段に責任を持たせるため、個人及びチームでの振り返りを徹底し、意見や主張、考えを常に俯瞰的に捉える

b. 創造的思考力

1. 国際社会および日本社会で問題となっているテーマ（地球規模での問題）を扱い、学習と実社会を結びつけつつ、自分とは異なる基準によるものの見方・考え方を理解した上で自らの意見を創造していく
2. 自らの意見を、スピーチ、プレゼンテーション、ディベートやディスカッションなどの言語活動を通じて実践し、思考力も養成していく

c. 実践力

1. 読み書き能力のスキルと態度を修得し、教科を横断したさまざまな国際的な文脈におけるコミュニケーションと異文化間の理解ができるようになる